

# ほ場整備と連動とした新たな担い手組織の育成

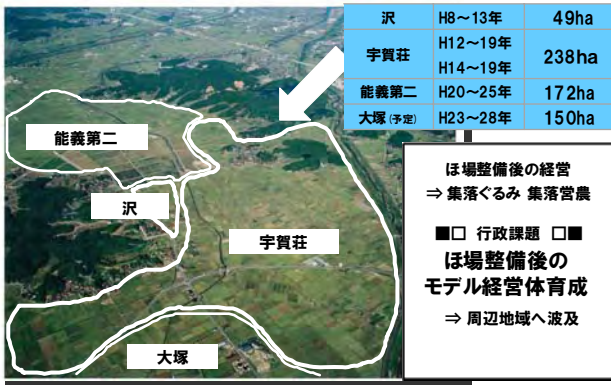
東部農林振興センター松江農業普及部安来支所

## 1 課題の背景とねらい

安来市の能義・宇賀荘・大塚地区では、大正～昭和初期に整備されたほ場が狭小となり、平成8年から大区画ほ場整備が施行されています。



### 次々と進む 大区画ほ場整備



またほ場整備を契機として、地区内水田を新たに結成する集落営農組織に集積し、より生産性の高い農業を目指す取り組みも進められています。

このうち、農事組合法人ファーム宇賀荘と能義第二地区を重点指導対象とし、前者には法人初年度の経営安定を、後者には経営計画策定の支援などを行っています。

## 2 活動の内容

※ 組織の発展段階に応じた支援を行っています。

### (1) 農事組合法人ファーム宇賀荘

ア 課題；経営の高度化 法人への移行

平成20年度にほ場整備面工事が完了し、同年春から174haで水稻、大豆栽培を中心にした経営が開始されました。

一方、組織形態は任意組織であり、経営の継続や責任体制の問題を背景に法人への移行が課題でした。

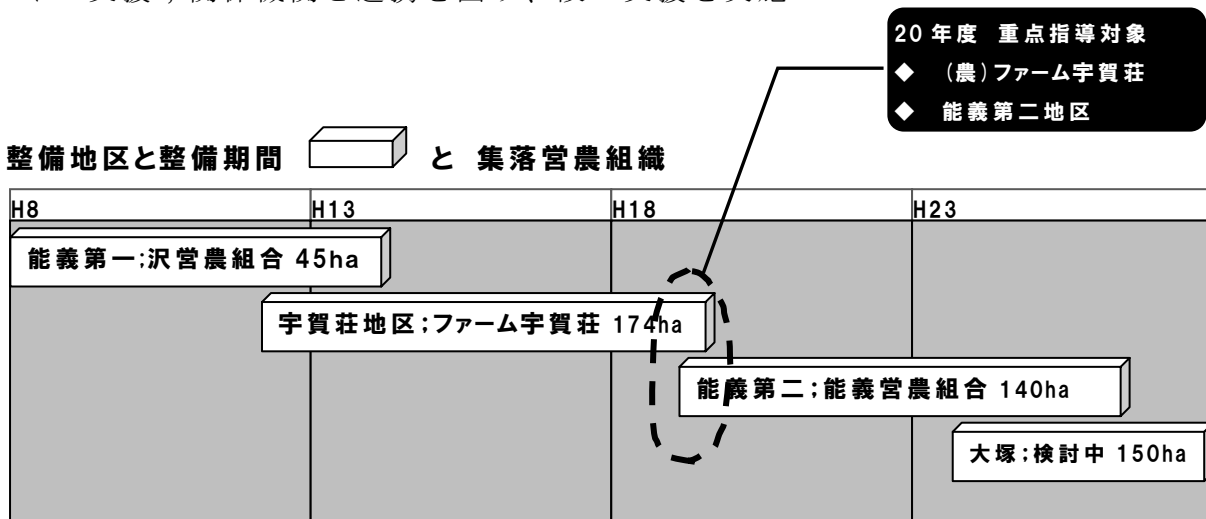
イ 支援；法人移行への手続き支援 定款、5カ年事業・収支計画の作成支援

### (2) 能義第二地区

ア 課題；担い手組織の設立支援

平成20年秋からはほ場整備が竣工し、5年にわたり整備が行われています。同年春から、ほ場整備後の新たな担い手組織の運営体制をはじめとして機械導入計画の立案などの設立支援が課題でした。

イ 支援；関係機関と連携を図り、設立支援を実施



### 3 活動の成果

#### 農事組合法人ファーム宇賀荘

- ◆ 組合長 岩崎隼雄(理事 13 名 監事 3 名)
- ◆ 構成員 242 戸 13 集落
- ◆ 経営面積 179ha  
水稲 75.6ha 大豆 97.1ha
- ◆ 収益配分 地代、従事分量配当
- ◆ 出資 1 口 500 円 面積割で出資
- ◆ 特徴 生協との契約栽培・交流  
冬季湛水コハクチョリ越冬地  
どじょう米



#### (1) 対象者の変化・評価

法人化は意識変革；法人化により経営を強く意識した営農活動を展開できました。

#### (2) 地域等への波及効果（周囲の変化）

周辺で進められているほ場整備地区のモデル経営体に位置づけられました。

#### 能義第二地区

- ◆ 現況 既存営農組合(4 組織)を合併  
ほ場整備完了田を順次耕作  
組織体制などを協議中
- ◆ 構成員 152 戸 3 集落
- ◆ 経営面積 161ha  
水稲 含直播、大豆ほか
- ◆ ほ場整備 フォアス工法を県内初採用  
地下水位コントロールが自動  
乾田化が可能 2 年 3 作を模索中



### 4 今後の方向と課題

#### (1) ファーム宇賀荘

今後の経営を見据え、計画的な事業展開を図っていく必要があります。

このため、組織内の意思疎通を十分図り、目標とする経営に向け一丸となって取り組む必要があります。

#### (2) 能義第二地区

設備投資の年次計画、資金調達の方法などは、国庫事業の活用を検討しています。

しかし、現段階で事業内容が不明確な点があるため、保留している段階です。

関係機関と連携を図りながら課題解決にあたる考えです。